



(前のページから) 世の中がいま目指している“共生社会”とは、実は「わからない」ことを前提とした社会のことです。理解できることや共感できることを条件として一緒に暮らすわけではなく、わからない存在であっても共にあることが共生です(理解や共感にあまり価値を置いてしまうと、結局は同調圧力や排除が生じるのではないのでしょうか)。

けれども社会はむしろ、ますます端的でクリアカットな物語ばかりを要請しているように感じるし、「わからなさ」を受容することに誰もが不慣れになってきているように思います。

わからないことに遭遇したときに、私たちはそこで大小の不安を感じるわけですが、地域家族会では平明な「専門知」ではなく、経験と意思を持ち寄ってこれを共有します。個人的に、谷川さんは論理的で合理主義的な印象もある人なのですが(奥さんの状態について、処方薬やその時々体調などを記録している20年以上に及ぶ詳細なグラフは、見せてもらえば誰もが驚くはずです)、けれど家族会に求めているものはもっと情緒的・有機的なものであるようにも感じました。

聞くことと聞いてもらうことを通して、わからなさについてわかり合う、いまそんな時間が私たちを少し安心させてくれるようです。

北中城村精神療養者家族会はまだ設立準備会の段階ですが、毎月第1金曜日には「家族の集い」を始めていて、正会員・賛助会員とも現在、絶賛募集中です。「家族会ってよくわからないなあ」という方も、ぜひ遊びにきてみてください。(増山)

家族による家族学習会 担当者養成研修のお知らせ

みんなねつと主催

【担当者養成研修(オンライン)】 日時：3月22日(火) 10:00~16:30

対象：家族学習会もしくは家族学習会セミナーに参加した経験のある方

参加費：2,000円(テキストを持っている方は680円)

申し込み締め切り：3月13日(日)

お申込みは右のQRコードから。

または沖福連のホームページでも案内しています。

(<http://okifukuren.org>)

